市町村名	多良間村

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	１－①	観光関連施設整備事業（東屋等）		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－（2）-ウ 観光客の受入体制の整備
担当部課名	観光振興課	事業実施（予定）年度	平成２５～２７年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－（1）
事業内容	本村の地域資源を活かした観光産業の振興を図るため、観光関連施設等に東屋等を整備し快適な環境づくりによる観光地形成を推進する。				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a) 当初予算額	25,500	27,600	17,000		
	(b) 予算現額	2,110	27,538	7,298		
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 23,390	▲ 62	▲ 9,702		
	(d) 繰越額	0	0	0		
	A. 計 (b+d)	2,110	27,538	7,298		
	B. 執行済額	2,110	27.538	7,298		
	うち交付金充当額	1,688	22.030	5,838		
次年度繰越額		0	0	0		
執行率（%）(B/A)		100.0%	100%	100%		
予算の状況の説明		当初、2カ所の東屋整備を予定していたが、1ヶ所は県立自然公園内であり、調整に時間を要することから、1ヶ所の整備を行う事となった。そこで、実施設計の結果に基づき予算額を17,000千円から7,298千円に減額し東屋１棟の整備をした。				

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況			
		25年度	26年度	27年度	28年度
観光関連施設（東屋）の整備	目　標	（観光関連施設の整備）	（東屋、公衆トイレの設置）	（東屋等の整備）	（　）
	実　績	委託設計業務	東屋、公衆トイレの設置	東屋等の整備	
達成状況説明	平成27年度実施目標は、東屋2棟の工事を実施予定だったが、建築場所の1か所が県立公園指定の特別地域内であることから、調整に時間を要すると判断し、計画を変更して1棟を減にして整備した。				

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（　年度）
観光関連施設（東屋）の整備 ①ミッジ公園：1棟 ②前泊地区：1棟	目　標	（　）	（観光関連施設の整備）	（供用開始）	（2棟）	（　）
	実　績		委託設計業務	供用開始	1棟	
進捗状況説明	平成27年度実施目標は、東屋2棟の工事を実施予定だったが、建築場所の1か所が県立公園指定の特別地域内であることから、調整に時間を要すると判断し、計画を変更して1棟を減にして整備した。					

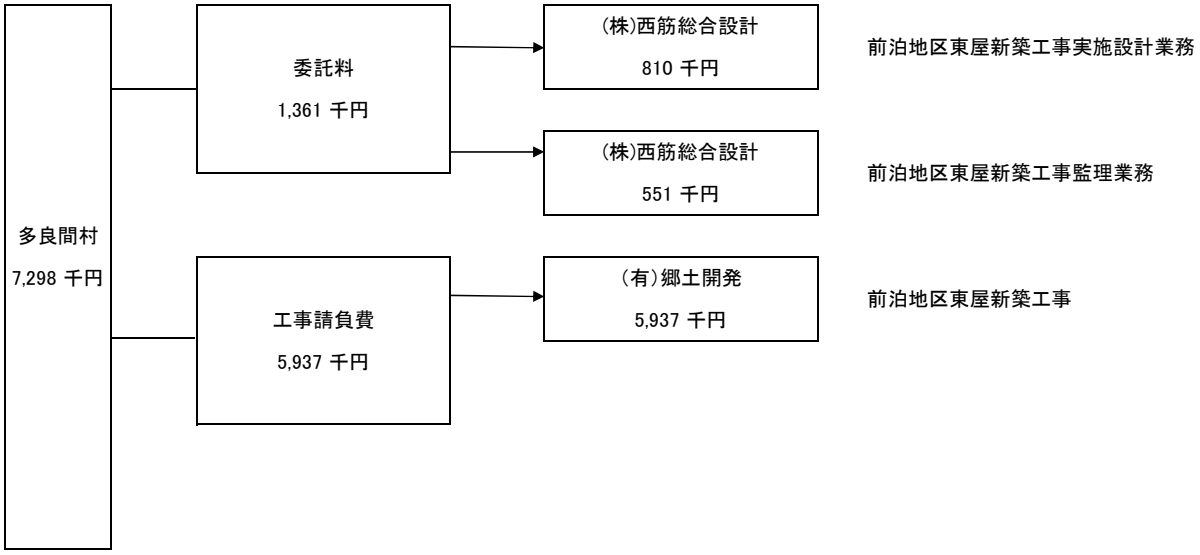
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	本村は、県立自然公園に指定されていることから、事業を実施する際に、県への報告（進達）が必要になる場所があるので、事前の調整が必要である。 また、定期的に清掃を行い施設の維持管理を行う。	観光客の誘致、利用者の憩いの場として利用するために、観光客や住民に対して周知を行う必要がある。

今後の取り組み方針

多良間村の広報等で施設の紹介、使用上のマナーなどの周知を行い、観光客や住民により良い施設利用を促す。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,298	7,298	5,838	1,460	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	工事請負業者及び委託業者は、指名競争入札により選定しており妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	予算規模は適正であったと考える。
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	受益者との負担関係は発生しない。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	費目、使途については、妥当であったと判断する。

市町村名	多良間村

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	１－②	美化緑化推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－（2）－ウ 観光客の受入体制の整備
担当部課名	観光振興課	事業実施（予定）年度	平成25～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－（1）
事業内容	観光地形成に向け、公園、道路等の主要施設の清掃作業により環境美化を行い、観光関連施設等の緑化推進を図る。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a) 当初予算額	5,000	5,968	7,068		
	(b) 予算現額	5,000	4,722	4,727		
	(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 1,246	▲ 2,341		
	(d) 繰越額	0	0	0		
	A. 計 (b+d)	5,000	4,722	4,727		
B. 執行済額		3,921	4.722	4727		
うち交付金充当額		3,136	3.777	3781		
次年度繰越額		0	0	0		
執行率（%）（B/A）		78.4%	100%	100%		
予算の状況の説明		当初、年間を通して4名の人員を想定して予算を組んだが、2名は年間を通して確保できたが、常時4名を確保できなかったこと等により、2,341千円減額した。				

活動目標（指標）及び達成状況

H26活動目標（指標）		達成状況			
		25年度	26年度	27年度	28年度
年間をとおして美しい環境で利用できるようにする。	目　標	（　年4回　）	（　8カ所　）	（　年4回　）	（　　）
	実　績	年2回	8カ所	年3回	
達成状況説明	村内観光関連施設を、年間概ね4回の美化・緑化作業の実施を目指した。4名の作業員での実施を目指したが、年間を通して確保できた作業員は2名であり、残りの2名については短期間の契約にとどまってしまい、その結果、年間の目標を達成することができなかった。				

成果目標（指標）及び進捗状況

H26成果目標（指標）		基準値（　年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（　年度）
観光関連施設及びアクセス道路の美化・緑化の実施。	目　標	（　　）	（　100%　）	（　年4回　）	（　　）	（　　）
	実　績		100%	年3回		
農村公園、ふるさと海浜公園、八重山遠見台、ミッジ公園等8ヵ所	目　標	（　　）	（　　）	（　8ヵ所　）	（　　）	（　　）
	実　績			8ヵ所		
進捗状況説明	作業員の必要人数を確保することがなかなかできず、年4回の目標が3回の実績となり、目標を達成することができなかった。					

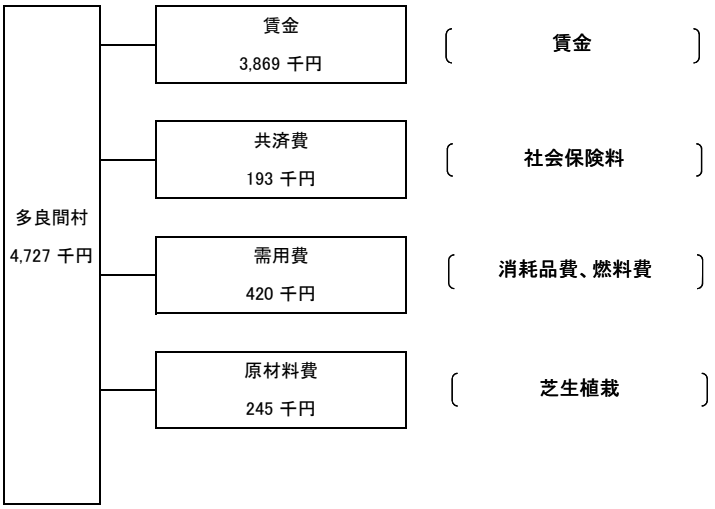
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	必要とする4名の作業員が十分確保できない状況にある。目的である「実施地区の通年における美化・緑化」を達成するため、人員不足が課題である。	必要人員の確保に向け、周知を図り、労働条件等の改善に努める。

今後の取り組み方針

年間を通して4名の人員確保が必要であるので、募集内容について、村内の掲示板等において周知を図り、人員確保に努めたい。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,727	4,727	3,781	946	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	年間を通して対応できる作業員等であり、妥当であったと考える
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	清掃作業に必要な人件費や需要費等であり適正な予算規模と考えられる
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	受益者との負担関係は発生しない。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	費目・使途については、実績報告時において支出等に関する書類により確認しており適正であった。

市町村名	多良間村

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1－③	観光関連施設整備事業（食事・土産品施設）		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章ー3－（2）－ウ 観光客の受入体制
担当部課名	観光振興課	事業実施（予定）年度	平成27～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－（1）

事業内容

本村の地域資源を活かした観光産業の振興を図るため、観光客への食事、お土産品の提供の場を整備し、快適な環境づくりによる観光地形成を推進する

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算の状況	(a) 当初予算額	4,752				
	(b) 予算現額	3,132				
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 1,620				
	(d) 繰越額	0				
	A. 計 (b+d)	3,132				
B. 執行済額		3,132				
うち交付金充当額		2,505				
次年度繰越額		0				
執行率（%）（B/A）		100%				

予算の状況の説明：当初、4,725千円の予算確保していたが、入札の結果、委託業務費1,620千円の不用が生じた。

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
食事・土産品施設の基本計画策定の実施	目　標	（基本計画策定の実施）	（　）	（　）	（　）
	実　績	基本計画策定の実施			

達成状況説明：本村の地域資源を活かした観光産業の振興を図るため、観光客への食事・お土産品の提供の場を整備し快適な環境づくりによる観光地形成を推進する。本年度は施設整備に向け、目的・必要性・地場産業の振興と活性化・若者の定住や移住・安全安心な防災拠点等について検討を行い、施設規模や施設配置計画等について、基本計画の策定を行った。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
食事・土産品施設の基本計画策定の完了	目　標	（　）	（基本計画策定の完了）	（　）	（　）	（　）
	実　績		基本計画策定の完了			

進捗状況説明：本村の地域資源を活かした観光産業の振興を図るため、観光客への食事・お土産品の提供の場を整備し快適な環境づくりによる観光地形成を推進する。本年度は施設整備に向け、目的・必要性・地場産業の振興と活性化・若者の定住や移住・安全安心な防災拠点等について検討を行い、施設規模や施設配置計画等について、基本計画の策定を行った。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	基本計画を基に基本設計・実施設計を進める。施設整備後の運用についても検討を行う必要がある。	基本設計・実施設計を進めるに当たっては、景観に考慮するとともに自然エネルギーを活用した低炭素地域づくりにも取り組み、また一時避難施設としての安心・安全対策を講ずる必要がある。

今後の取り組み方針

今年度取組んだ基本計画を基にして、基本設計・実施設計を行い、施設整備に向け取組む。整備後の運用に向け、収支計算も同時に進め、運営方法についても検討する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,132	3,132	2,505	627	0

多良間村 3,132 千円 → 委託料 3,132 千円 → （一財）沖縄県公衆衛生協会 3,132 千円

（多良間村地域振興拠点施設整備基本計画策定業務）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、指名競争入札により選定しており妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○3社見積による予算であり、適正な規模と考える。
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者との負担関係は発生しない。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については、実績報告において成果品等の確認をしており妥当であったと判断する。

市町村名	多良間村

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	２－①	多良間村観光振興基本計画策定事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－３－(2)－(ウ) 観光客受入体制の整備
担当部課名	観光振興課	事業実施（予定）年度	平成27～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１－(1)

事業内容

多良間村は、農業を中心とする村であるが、これからの若者の定住を図るためには、観光産業の振興は不可欠である。その柱となる振興計画を策定する。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算の状況	(a) 当初予算額	7,000				
	(b) 予算現額	4,500				
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 2,500				
	(d) 繰越額	0				
	A. 計 (b+d)	4,500				
B. 執行済額		3,544				
うち交付金充当額		2,835				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		79%				

予算の状況の説明：当初予算において、本事業の2年継続分の予算を誤って計上したため、予算を2,500千円減額した。

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
観光振興基本計画の策定	目　標	（基本計画の策定）	（　）	（　）	（　）
	実　績	調査業務の実施			

達成状況説明：観光振興基本計画を策定するために必要となる基礎情報の収集及び内容の分析を行った。また、策定委員会、審議会などを組織、開催し基礎情報について検討を行った。結果を次年度の策定に繋げる。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
村の観光振興に係る課題の把握 ・新観光メニューの開発 ・ハード、ソフト事業の整備 ・地域資源の把握、利活用	目　標	（　）	（課題の把握）	（　）	（　）	（　）
	実　績		課題の把握			
村の観光振興に係る指針の整理 ・新観光メニューの開発 ・ハード、ソフト事業の整備 ・地域資源の把握、利活用	目　標	（　）	（指針の整理）	（　）	（　）	（　）
	実　績		指針の整理			

進捗状況説明：本村観光に関する基礎情報を収集し、村の観光振興に係る指針の整理を行うことができた。次年度は、このことを基に、観光基本計画の策定を行う。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	本村は、少子化、高齢化の進展で人口減少が徐々に進んでいる。それに歯止めをかけるためには、若者のU･Iターンが望まれる。しかし、現在の農業中心の産業形態では、新たな若者の就業はあまり期待できない。 そこで、新たな産業としての観光に対する期待が高い。しかしながら、村民の観光に対する意識はまだまだ低い状況にあり、どのような観光を目指すべきかがはっきりしない。	観光振興計画を策定するためのワークショップを開催し、より多くの村民が策定に関わるようにする。 また、策定に関するシンポジウムを開催し、村民の参加を呼び掛ける。

今後の取り組み方針

・観光に関するワークショップを開催する。
・全村民を対象としたシンポジウムを開催する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,544	3,544	2,835	709	0

多良間村 3,544 千円 ― 委託料 3,544 千円 ― 協同組合沖縄産業計画 3,544 千円 （多良間村観光振興基本計画策定基礎調査等支援業務）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者については、指名競争入札により選定しており、妥当であったと考える。 ○3社見積による予算であり、予算規模は適正であったと考える。 ○受益者との負担関係は発生しない。 ○費目・使途については、実績報告において成果品等の確認をしており妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	多良間村

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	３－①	イネヨトウかく乱法防除事業（フェロモンチュウブ）		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章－３－（4）－ウ 圏域の特色を活かした産業の振興
担当部課名	産業経済課	事業実施（予定）年度	平成25～29年	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－１－（6）

事業内容

さとうきび生産安定と品質向上を図るため、フェロモンチュウブを設置し、雌を探す雄の行動を阻害し、交尾率を低下させることにより、イネヨトウの次世代密度低下を図る。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a) 当初予算額	20,000	20,000	20,000		
	(b) 予算現額	20,000	20,000	19,935		
	(c) 増減額 (b-a)	0	0	▲ 65		
	(d) 繰越額	0	0	0		
	A. 計 (b+d)	20,000	20,000	19,935		
B. 執行済額		19,994	20,000	19,935		
うち交付金充当額		15,995	16,000	154,948		
次年度繰越額		0	0	0		
執行率（%）（B/A）		100.0%	100.0%	100.0%		

予算の状況の説明：予算内で事業を執行

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
さとうきびのイネヨトウ被害を防ぐためフェロモンチューブ設置による防除を行う。	目　標	（フェロモンチューブ設置による防除）	（フェロモンチューブ設置による防除）	（フェロモンチューブ設置による防除）	（　　）
	実　績	フェロモンチューブ設置による防除	フェロモンチューブ設置による防除	フェロモンチューブ設置による防除	
フェロモンチューブ設置対象面積A＝381ha	目　標	（　　）	（　　）	（381 ha）	（　　）
	実　績			416 ha	

達成状況説明

平成24年度に沖縄県がイネヨトウ交信かく乱法による一斉防除普及技術普及事業を実施した経緯があり、島全域による交信かく乱法防除効果により、年々イネヨトウの数は減って一定の効果は見受けられるがさとうきび被害は未だに多い状況にあり平成25年・26年・27年と実施した。

現在、トラップによる成虫誘引調査を継続しながら効果を検証している。さとうきびの芯枯れ被害がまだあり、イネヨトウの密度低下を進め、さとうきび増産及び品質向上に繋げる。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（　年度）
イネヨトウを防除することで、さとうきびの生産安定と品質向上を図ることで、地域の産業振興の発展に繋がる。	目　標	（　　）	（フェロモンチューブ設置による防除）	（フェロモンチューブ設置による防除）	（フェロモンチューブ設置による防除）	（　　）
	実　績		フェロモンチューブ設置による防除	フェロモンチューブ設置による防除	フェロモンチューブ設置による防除	

進捗状況説明

さとうきび生産量減産の要因の1つにイネヨトウによる被害が挙げられる。

本事業は、イネヨトウ交信かく乱法による防除技術の普及を目的に実施し、イネ化のススキ等が島内全域（原野含む）に植生しているため、島全域を事業実施区域として取り組んだ。3年間20,000万トン維持の実績となった。今後とも、本事業による防除を実施し、さとうきびの生産向上に繋げて行く。

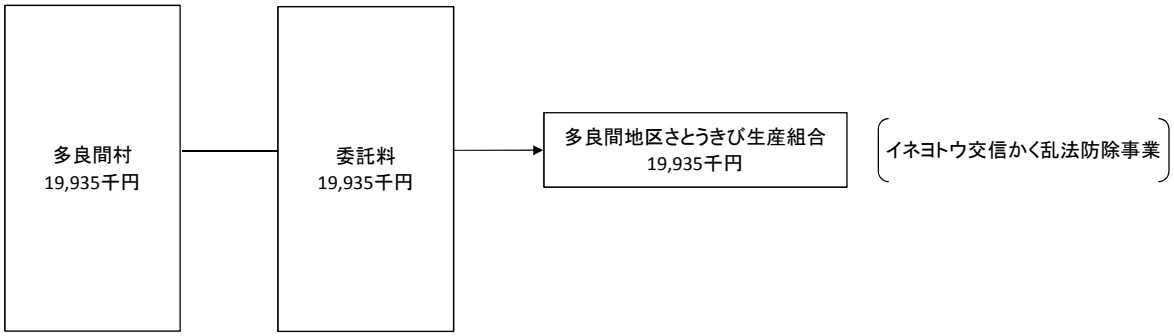
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	さとうきびは、本村の基幹作物でありまとまった面積で栽培されており、イネヨトウが発生し大きな被害を受け、危機的な状況に陥ったことがあることから、各関係機関及び生産農家が連携してイネヨトウの被害を最小限に抑える必要がある。	イネヨトウ交信かく乱による防除を行うことにより、イネヨトウの被害を大幅に減らすことができると考えられる。イネヨトウトラップによる生息数の調査を継続しながら、さとうきびの生産、品質向上に努める。

今後の取り組み方針

4年前さとうきび栽培地域でイネヨトウの異常発生となり,沖縄県のモデル事業で島内全域のフェロモンチューブ設置を行った。その後 3年間事業継続してきたことにより大きな被害も無く継続の意義があると考えられる。交信かく乱法は非常に効果的な手法であり従来の慣行防除とは作業内容が大きく異なる新防除技術であるため、農家、関係機関等との連携を図りながら平成28年度も実施する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
19,935	19,935	15,948	3,987	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先の事業者は、村内さとうきび生産農家と連携しており、事業実施についても妥当であると考えている。 ○予算額も事業内容に見合った執行となっており、適正な予算規模と考える。 ○費目、使途については事業目的達成の視点から必要不可欠なものであり、精算段階で検査を実施しており適正である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	多良間村

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	４－①	小学校空調設備設置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－（11）－イ 生活環境の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上
担当部課名	教育委員会	事業実施（予定）年度	H27年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－（1）
事業内容	亜熱帯気候である沖縄県は、年間をとおして高温多湿な状況が長期間続くことから、児童の学習環境を改善し、学習に集中できる環境を整備するため空調設備を整備する。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算の状況	(a) 当初予算額	3,930				
	(b) 予算現額	3,930				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 繰越額	0				
	A. 計 (b+d)	3,930				
B. 執行済額		3,888				
うち交付金充当額		3,110				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		98.9%				
予算の状況の説明		予算内で空調機6台を設置することができた。				

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
小学校空調設備の整備	目　標	（　4台設置　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	6台設置			
達成状況説明	設計・見積もりを精査して、単価を低減し設置台数を増やすことができた。				

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
小学校空調設備の完了 普通教室3年生から6年生の 4教室に各1台ずつ設置する。	目　標	（　）	（　4教室　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		6教室			
進捗状況説明	小学校全普通教室に空調設備設置を完了した。					

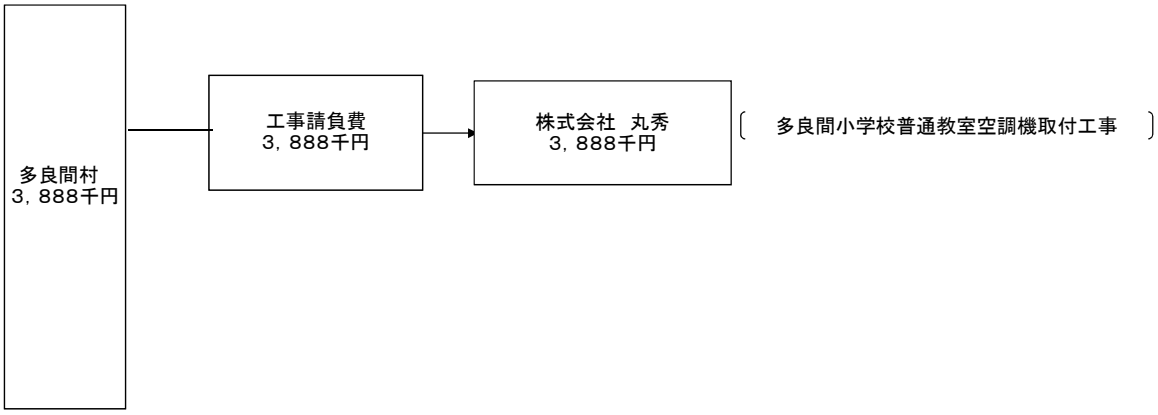
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	空調設備の設置により学習に集中できる環境ができた。	電気料を抑えるため空調設備の温度を高めに設定し扇風機を併用する。

今後の取り組み方針

児童が空調設備に依存しないように使用時間帯を決めて使用する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,888	3,888	3,110	778	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点　検　項　目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事は指名競争入札により施行されており適当と考える。 ○3社から見積を提出させて予算を立てており、適正である。 ○多良間村は事業費の2割を負担しており事業内容、負担割合から判断しても妥当である。 ○費目、使途は事業目的に即しており真に必要なものに限定されている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	多良間村

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	４－②	児童生徒島外教育諸活動助成事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(11)イ 教育機会の拡充
担当部課名	多良間村教育委員会　　教育課	事業実施（予定）年度	平成27～33年度	沖縄振興基本方針平成27年度該当箇所	Ⅲ－3－(1)
事業内容	島外で実施されるスポーツ大会文化交流会等、各種教育活動に積極的に参加し、離島の小規模校では体験できない他地域の児童生徒との交流で意識の高揚、スポーツの技術力向上等、未来を拓く子ども達の能力向上を図る。				
実施方法	□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算の状況	(a) 当初予算額	5,350				
	(b) 予算現額	4,592				
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 758				
	(d) 繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	4,592				
	B. 執行済額	3,543				
	うち交付金充当額	2,834				
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		77.2%				
予算の状況の説明	当初予算を見込んでいたが、3月補正で予算758千円を減額した。 不用額672千円は、選手引率旅費の精算の遅延、児童生徒の派遣がスムーズに執行できなかったことによる。					

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度
各種大会への児童生徒派遣		目　標	児童生徒派遣			
		実　績	児童生徒派遣			
達成状況説明	当初予定では、小学校・中学校選手派遣を年間38回、派遣人数を345人を予定としていたが、実績として派遣回数34回、派遣人数は331人となっている。台風接近や飛行機の機材不良等により予定どおりの派遣ができなかった。また、離島という条件の中、今年度も同様な天候が予想される。					

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
児童生徒の派遣による交流推進と意識高揚	目　標	（　　）	交流推進と意識高揚	（　　）		（　　）
	実　績		交流推進と意識高揚			
進捗状況説明	小学校・中学校の島外派遣は、離島であるが故に経費がかさみ、貧困世帯や非貧困世帯に重くのしかかる。そのため、小・中学校児童生徒の島外教育諸活動費助成は保護者負担が減り、児童生徒派遣による交流推進と意識高揚につながっている。					

取組の検証

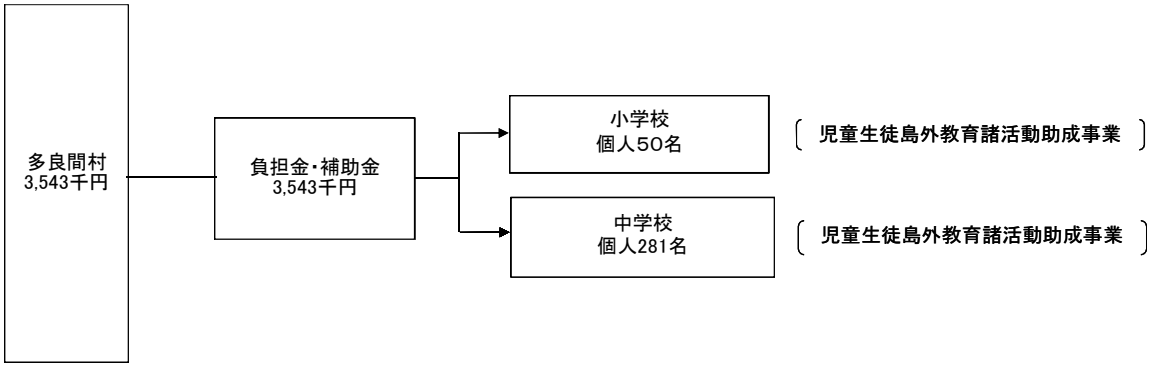
推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
島外で実施されるスポーツ大会文化交流会に参加することは、離島の小規模校では得られない体験がある。また他地域の児童生徒との交流で意識の高揚とスポーツの技術力向上等が図られる。その体験を推進するためには、島外での大会が主なため、離島から児童生徒派遣があるたび保護者の負担が大きいことから、助成は必要である。	島外での大会が主なため、離島から児童生徒派遣があるたび保護者の負担が大きかったが、この事業を推進することで、保護者負担が軽減されている。また、旅費の精算など、事務手続きを速やかに行いスムーズな執行に努める。

今後の取り組み方針

小体連や中体連が主催する大会だけに一括交付金で助成を行っているが、小・中体連以外の各種団体の主催する大会にも今後助成を行ない、交流推進と意識の高揚を図る。
さらに競技によっては、2泊から3泊、県大会、九州大会、全国大会など児童生徒の活躍に伴い保護者の負担増にもなっているため、補助金の見直し、検討を行い保護者の負担軽減に務める。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,543	3,543	2,834	709	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出に関する経費の管理を学校が取りまとめているので支出先の選定方法は妥当である。 ○予算額も事業内容に見合った執行となっており、適正な規模であった。 ○費目・使途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	多良間村

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	４－③	ふるさと文化担い手継承事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-（4）-イ
					文化の担い手育成
担当部課名	多良間村教育委員会　　教育課	事業実施（予定）年度	平成２７年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－３－（1）

事業内容	学校教育において、児童生徒に対応した教育プログラムを充実し、生涯学習機会の提供などの学べる環境づくりを図るため副読本を作成する。
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算の状況	(a) 当初予算額	5,206				
	(b) 予算現額	5,206				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	5,206				
B. 執行済額		5,206				
うち交付金充当額		4,164				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		予算内で事業を執行できた。				

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
副読本の作成 作成予定数量700冊	目　標	（　700冊　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	750冊			

達成状況説明：沖縄県内、多良間村の文化、産業、伝統行事等身近な様子を、グラフ・図・写真・資料を使い解りやすく、楽しく学習できる内容を目指し、多良間村をより深く感じ、さらに国指定重要無形文化財の八月踊りを紹介することで後継者育成が図られる事をも期待できる副読本が作成できた。
副読本の作成予定目標数量は700冊であったが、内容の精査を図り50冊増で作成することができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
副読本の活用による地域の産業・文化等を学べる環境づくりを確保	目　標	（　　）	（環境づくりの確保）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		環境づくりの確保			
地域社会を学ぶ教材として活用しながら、地域住民も学べる資料と位置づけて作成	目　標	（　　）	（地域住民も学べる資料の作成）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		地域住民も学べる資料の作成			

進捗状況説明：平成27年度で完成し、平成28年4月から学校で活用が図られ、村内各戸へも配布することができた。
小学3．4年生の社会科は地域学習といわれ、主な学習対象が身近な地域となっている。副読本は、多良間村の歴史、文化、産業を取り上げることで、子ども達が郷土に誇りと愛情を持てる教育を行う必要がある。また、子どもから大人まで地域のことを学ぶ資料として活用することが地域の人材育成に繋がる。

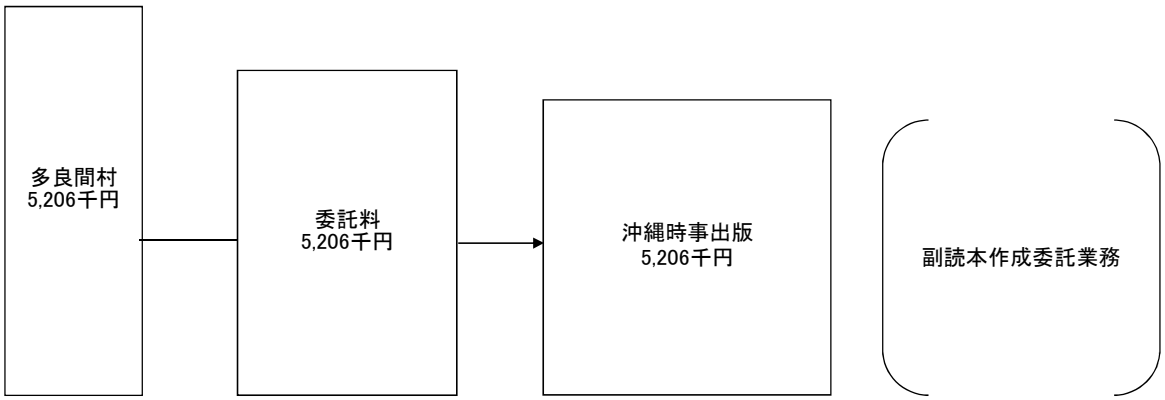
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	小学3．4年生の社会科は地域学習といわれ、主な学習対象が身近な地域となっている。 教科書では、日本全国の特定地域を取り上げ一例を紹介している。 本村は、教科書の身近な環境とは異なる点が多く実感する内容としては弱い。 地域学習をより深め副読本で、多良間村の歴史、文化、産業を取り上げ学ぶ機会を作ることで、子ども達が郷土に誇りと愛情を持てる教育を行う必要がある。また、子どもから大人まで地域のことを学ぶ資料として活用することが地域の人材育成に繋がる。	副読本の活用による生涯学習をすることで、郷土に誇りと愛情をもてる人材を育成する。 村内全戸に配布することで、副読本を活用して子どもから大人まで地域を学ぶ資料となり、活用することで郷土に誇りと愛情を持てる人材育成に繋がる。

今後の取り組み方針

副読本の活用による生涯学習をすることで、郷土に誇りと愛情をもてる人材を育成する。
副読本を活用して子どもから大人まで地域を学ぶことで、郷土に誇りと愛情を持てる人材育成に繋がる。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,206	5,206	4,164	1,042	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算額も事業内容に見合った執行となっており、適正な規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	多良間村

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4 － ④	学力向上推進ALT活用事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－5－(4)－ア 国際社会、情報社会に対応した教育の推進
担当部課名	多良間村教育委員会・教育課	事業実施（予定）年度	平成27～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－(1)
事業内容	学校教育において、国際化社会に対応できる児童生徒の学力向上を図るため、ALTを招聘し国際感覚を養いながら児童生徒の英語力の向上を図る。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算の状況	(a) 当初予算額	394				
	(b) 予算現額	394				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	394				
B. 執行済額		394				
うち交付金充当額		314				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		当初の計画通りで、想定内の予算執行状況であった。				

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
外国語指導助手(ALT)活用による英語力の向上	目　標	（　英語力の向上　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	英語力の向上			
達成状況説明	学校生活の様々な場面における外国語指導助手(ALT)との交流や触れ合いを通して、異文化に対する興味・関心を喚起し、理解を深めることにより、国際理解教育の充実を図り、国際感覚の醸成に寄与することができた。				

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
外国語指導助手(ALT)を招聘して児童生徒の英語力向上を図り、国際社会に対応できる人材を育成する。	目　標	（　　）	（国際社会に対応できる人材の育成）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		国際社会に対応できる人材の育成			
進捗状況説明	●小学校：事業の当初は、主として、5･6年生を対象としたが、後半は、低学年も対象に入れ、充実したものとなった。 ●中学校：中学校全学年を対象とし、期待通りの成果が得られた。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	●積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、聞くこと、話すことを中心とした外国語の基礎・基本を身に付けさせる。	●外国語指導助手(ALT)が小中学校に訪問指導し、外国語指導助手(ALT)が担当する授業時間数や日数を増やすこと。

今後の取り組み方針

●外国語指導助手(ALT)を活用して国際社会に対応できる国際感覚を養いながら児童生徒の学力の向上を図る。
●外国語指導助手(ALT)の学校現場でのより効果的な活用について検討を進めていく必要がある。また、外国語指導助手(ALT)の資質向上のために小中合同研修会を実施することが重要であり、その研修内容の精査により、さらに充実を図る必要がある。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
394	394	314	80	0

多良間村 394千円 → 委　託　料 394千円 → 個人（1名） 394千円

〔学力向上推進ALT活用事業〕

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点　検　項　目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○外国語指導助手(ALT)は、調査及び考慮の上選定しており、妥当であると考える。 ○不用額はなく、適正な規模と考える。 ○費目・使途は予定通りで、目的に即した適正なものであったと判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	多良間村

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5－①	優良繁殖雌牛導入支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(7)－ア おきなわブランドの確立と生産体性の整備
担当部課名	産業経済課	事業実施（予定）年度	平成27～31年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－6

事業内容

生産農家の経営の安定化及び良質な肉用牛の改良推進を図る為、優良繁殖雌牛導入を支援する。
優良繁殖雌牛を導入する際に購入費の税抜き価格の1/2以内で最高30万円までを支援する。それにより母牛の更新及び改良の推進を図る。

実施方法

□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算の状況	(a) 当初予算額	4,500				
	(b) 予算現額	4,500				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	4,500				
B. 執行済額		600				
うち交付金充当額		480				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		13%				
予算の状況の説明		当初は、年間を通して15頭の導入を予定していたが、導入申込期間の遅れや導入希望者が少ないことから2頭の導入となり、3,900千円の不用が生じた。				

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
優良繁殖雌牛の導入頭数：15頭	目　標	（　15頭　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	2頭			

達成状況説明

当初の年間計画では、15頭の導入予定だったが事業開始の遅れや導入申込者が少ないことから導入頭数は2頭にとどまった。
導入した2頭に優良種雄牛を人工授精することにより算出された雌子牛は、島内自家保留を推進することで増頭につながる。

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
H27～H31年の5年間で75頭 H27優良繁殖雌牛導入率：20%	目　標	（　）	（　20%　）	（　）	（　）	（　）
	実　績		2.6%			
	目　標	（　）		（　）	（　）	（　）
	実　績					

進捗状況説明

当初計画で年間で15頭、年間達成率は累計の20%で取り組んだが、事業実施の遅れや導入申込者の少なさから当初の見込みより大きく減少し、H27年度は導入頭数2頭、全体目標の2.6%で、今年度の目標に対する達成率としては13%にとどまった。今後は事業の早期実施に取り組む。

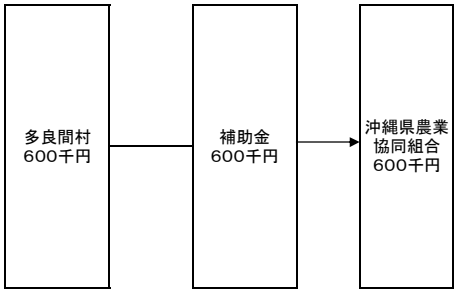
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	本村の畜産は、担い手不足による農家の減少と、それによる飼養頭数の減少が大きな課題となっている。 今回の事業を活用して各農家の優良種の導入による質の向上及び増頭する必要性がある。 当初計画での導入実績が大幅に減少した原因としては、事業実施の遅れが大きな要因となるが、近年の市場情勢により子牛の高騰が続き、導入する事が困難となっている事もひとつの要因と考えられる。優良種にいたっては競り落とすのが、なおのこと困難となる。	優良繁殖雌牛導入の農家説明会等で農家への周知を図り、当初計画での目標頭数である15頭導入に向けて事業の早期取り組みを行う。 また、導入市場の範囲拡大により、セリ市場での他の市町村との競合を避けて優良雌牛の導入効率の改善を図る。

今後の取り組み方針

年間導入頭数の達成のため農家へ早期に周知し、他の市町村との競合を避け導入効率を100%にする事で優良繁殖雌牛の資質向上を図る。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
600	600	480	120	0



優良繁殖雌牛の導入：15頭
30万円を上限とし、1/2以内を支出
例：50万→25万補助金（農家負担→25万）
70万→30万補助金（農家負担→40万）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○農業協同組合は県内外での導入実績があり、妥当だと判断。 ○飼養頭羽数の2%で年間自家保留頭数の1/3程度なので規模は適正。 ○負担割合は1/2以内としており他の1/2リース事業などと比べても妥当と判断。 ○費目・使途については、補助金支出時に検査を実施しており事業目的に必要な支出と判断
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	多良間村

平成２７年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	７－①	多良間村自動車航送コスト負担軽減事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－（11）－ア 交通・生活コストの低減
担当部課名	総務財政課	事業実施（予定）年度	平成27～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－9

事業内容

離島住民の利便性を確保するため、高額である多良間島⇔宮古島間のフェリー自動車航送に係る運賃補助を実施し、自動車航送運賃コストの軽減を図る。

実施方法

□直接実施　□委託　■補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算の状況	(a) 当初予算額	2,986				
	(b) 予算現額	986				
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 2,000				
	(d) 繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	986				
B. 執行済額		389				
うち交付金充当額		311				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		39.5%				

予算の状況の説明

昨年度並みの利用を見込んで当初予算を計上した。10月末時点で利用実績が昨年度を下回っており、3月末までに利用増が見込まれないため補助金を2,000千円減額した。

活動目標（指標）及び達成状況

H27活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
宮古島⇔多良間島間の自動車航送コスト負担の軽減	目　標	（　72台　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	29台			

達成状況説明

目標台数72台の設定をしたが29台の自動車航送運賃にとどまった。４月事業開始で計画を進めたが年度途中の８月からの実施となり目標台数を達成することができなかった。
8月5台（65，100円） 9月6台（81，850円） 10月3台（39，060円） 11月4台（52，080円） 12月2台（26，040円） 1月3台（39，060円）
2月4台（55，810円） 3月2台（29，770円）

成果目標（指標）及び進捗状況

H27成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
	目　標	（　　）	（定住環境の改善）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績		定住環境の改善			

進捗状況説明

目標台数72台の設定をしたが29台の自動車航送運賃にとどまった。
自動車航送コスト負担軽減事業で、宮古島での移動手段の確保で日常生活を含め教育や医療等で宮古島に出かける頻度の多い、村民の負担軽減が図られた。
平成27年度は、8月からの実施で、村民への周知も不十分でしたが平成28年度は広報等周知活動を強化したい。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	今後経済的負担を軽減するため、法人事業者まで拡大するか検討していく必要がある。また、宮古島市での、交通手段確保のための事業となっているため車検整備のための自動車航送について今後どうするか検討を要する。	元々自動車航送運賃が高額なため、補助率50%を70%まで引き上げて、利用者負担額の軽減を検討したい。 補助率のアップにより個人負担を軽減することにより、利用実績の向上と村民負担の軽減が大幅に図れる。

今後の取り組み方針

自動車航送コスト負担軽減事業を事業者まで拡大や車検整備のための輸送を検討する必要がある。また、補助率のアップにより個人負担を軽減することで、利用実績の向上と村民負担の軽減が大幅に図れる。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
389	389	311	78	0

多良間村 389千円 → 補助、負担金及び交付金 389千円 → 航路事業者（多良間海運）389千円 ｛フェリー車両航送に係る運賃の一部支援｝

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	支出先については、航路事業者が1事業者しかいないため妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	利用者の航送割引運賃申込書で事業を実施しているので適正な予算規模と考えられる。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	沖縄離島住民等交通コスト負担軽減事業の負担率を参考に設定しており、受益者との負担関係は妥当である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	費目・使途については実績報告時ににおいて支出等に関する書類により確認適正であった。